2023年度

札幌日本大学中学校
入学選抜試験
【B日程（1月9日）】

国　　語

試験時間　60分

1．指示があるまで，問題冊子（さっし）を開いてはいけません。
2．答えは，解答用紙に記入してください。問題は，一～二までであります。
3．試験監督（かんとく）の先生の指示に従って，試験を開始してください。
4．試験の途中で，トイレに行きたくなったり，気分が悪くなったりした場合は，手をあげて試験監督の先生の指示を受けてください。
5．試験開始の指示があってから，解答用紙に「受験番号」「氏名」を記入してください。
6．解答用紙には，解答以外を記入しないでください。
7．試験が早く終わっても，周囲を見回したり，横を向いたりしてはいけません。試験監督の先生から注意を受けることがあります。
8．机の上には，筆記用具以外は置いてはいけません。風邪（かぜ）などにより，ティッシュペーパーを使用したい場合は，予（あらかじ）め試験監督の先生に申し出てください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合により本文を一部改変してあります。また、ぬき出しの問いや字数の指定のある問いは、句読点も一字に数えます。

スマホを通じたコミュニケーションでは、ダンスによる同調のように、同時に行うこと、同時に感じることができません。スマホの動画の中で人が動いていたとしても、それは記録されたものであって生身の人間ではありません。［　A　］それがライブであったとしても、自分の都合で止めることができます。記録されたものは、逆に延々とリピートすることもできます。それは、自分だけの時間だからです。

［　B　］、リアルな社会は現在進行形がずっと続いていて、振り出しに戻ることができません。現実というのは、自分の時間であるとともに相手の時間でもあります。いつか終わります。

身体をつなぎ合わせるためのイベントとして祭りなどがあるものの、これは一過性のものです。イベント志向の強い現代ではスポーツの大会やコンサートが各地で開催されますが、そこでいっしょに騒いでもそのつながりはその場限りです。共同体を継続させる大きな効果はもちません。その欠陥を埋めるために、ＳＮＳがもてはやされているわけですが、それらは決して身体をつなぐ代替にはなっておらず、逆に疎外感をつくる結果となっています。

しかし、インターネットでつながることに慣れると、肌で接している現実の世界の自分より、スマホの中にいる自分のほうが、リアリティをもつものになってしまう可能性があります。［　C　］、現実はなかなか自分の意図するようにはならないからです。思い通りにするには他者と交渉しなくてはいけない。そこでは他者からプレッシャーをかけられて泣くこともあるでしょう。こんな厄介な現実世界より、自分の思い通りになるほうが、居心地がいい。スマホの世界は、面白くなければやめればいいし、振り出しに戻って繰り返すことだってできます。①こういう世界に慣れると、どうしても現実よりスマホの世界にいたくなる。

人間は、適応能力の高い動物です。それでも大人はある程度完成されているので、身体や心を適応させるのが難しい面がありますが、若い人たちの適応能力は非常に高い。とりわけ子どもたちの適応能力の高さには［　I　］を見張るものがあります。スマホでのやりとりもすぐに適応してしまう。生まれたときからスマホが身近にある子どもたちは、自分が操作できるスマホの世界がリアルになり、スマホ以外の②現実が二の次になってしまう可能性がある。ここにこそぼくの不

安があります。

本来、人間は「互いに違う」ということを前提に、違うからこそお互いに協力し、異なる能力を合わせながら、一人一人の力ではなし得ないことを実現してきました。そのために、人間は③他者とのつながりを拡大するように進化してきたわけです。人間同士が尊重し合うことの前提にあるのは、相手を100％理解することではなく、「相手のことはわからない」という認識です。わからないからこそ知りたいと思うわけで、極端なことをいえば、わかってしまったら、もう知る必要はありません。自分と同じようにできていて、自分と同じ心をもっていると思えば、何もその人と付き合う必要はなく、自分だけを拡張していけばいいからです。

しかし、ICTやAI（Artificial Intelligence＝人工知能）は、個人を拡張する方向に進んでいて、異なるもの同士がつながり合って新しいことを生み出すことを目指していないように想います。インターネットは、「同じである」ことを前提として付き合うバーチャルな空間です。相手も自分も同じように行動することを前提につながっている。

生身の人間のふれ合いより、ネット上の世界に重きを置いていると、人間同士の付き合いが、［　Ⅱ　］ということがわからなくなります。スマホなど、非常に便利と思われるコミュニケーションツールによって本来違うはずの人間が［　Ⅲ　］する方向に誘導されている。

これが、現代に闇をもたらしている正体ではないでしょうか。

（山極寿一『スマホを捨てたい子どもたち』ポプラ社より）

問一　空らんA～Cに当てはまる言葉を次の中から一つずつ選び記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度以上使わないこと。

ア　なぜなら　　イ　あるいは　　ウ　たとえ　　エ　一方　　オ　やはり

問二　空らんⅠに当てはまる、体の一部を表す言葉を漢字一字で答えなさい。

問三　空らんⅡに当てはまる最も適切な文を次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア　「お互いに違う」ことを前提としている
イ　「同じもの同士である」ことを前提としている
ウ　「みんな平等である」ことを前提としている
エ　「お互いに助け合う」ことを前提としている

問四　空らんⅢに当てはまる最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア　相対化　　イ　一元化　　ウ　合理化　　エ　均質化　　オ　一体化

問五　――線部①「こういう世界」とはどのような世界ですか。次の文の空らんに合うように十字で抜き出して答えなさい。

□□□□□□□□□世界。

問六　――線部②「現実が二の次になってしまう可能性がある」とあるが、そうなる理由として最も適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア　現実の世界と違い、スマホの世界は、他者の情報は数値化されていて、人間関係を作ることが簡単にでき、友達作りに苦労しなくて済むから。
イ　現実の世界と違い、スマホの世界は、自分一人の世界であるため、本来の自分を出すことも、別人を装うことも思い通りにできて楽しいから。
ウ　現実の世界と違い、スマホの世界は、他者と交渉することなく、自分の都合でものごとを止めたり、やり直したりすることができて快適だから。
エ　現実の世界と違い、スマホの世界は、自分の都合で時間を管理でき、時間の使い方について他者と交渉する必要がないので、気が楽だから。

問七　――線部③「他者とのつながりを拡大」と反対の意味となる表現を五字で抜き出して答えなさい。

問八　本文には次の一文が抜けています。この文が入る場所の直後の五字を抜き出して答えなさい。

『そのため、「時間を共有している」という感覚は自分だけの都合で続けることはできません。』

問九　――線部「お互いに協力し、異なる能力を合わせながら、一人一人の力ではなし得ないことを実現してきました」とあるが、あなたが今までに経験したことで、――線部のような体験を、だれと、どのような力を合わせて、何を実現したかを、六十五字以上八十字以下で具体的に書きなさい。

問十　――線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなにしなさい。

①ミャンマーの政治にカンシンをもつ。　②トトウを組む。　③和室のショウジをはりかえる。

④みなさまのごタコウをお祈りします。　⑤秋の気配が感じられる。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合により本文を一部改変してあります。また、ぬき出しの問いや字数の指定のある問いは、句読点も一字に数えます。

これからの時代、①これまでとは少し違った勉強をする必要がある。

これまで考えられてきた勉強というものは、大体において「知識」、ないし情報を取りこむことであった。小学校からひたすらに知識を頭に入れ、試験の時にはその知識を使って答案を書いて、点をとるのである。この知識というものは、大変有用であると考えられている。〈　A　〉知識をたくさん持つことは、その人間の価値を高めると思われるのである。しかし、満点の答案を書こうとしている人たちが持っているような知識がたくさんあっても、それは本当の人間の力ではない。

問題は、それが本当に②人間として大事な能力であるのかどうかだ。ただ知識ばかり集めて喜んでいると、だんだん馬鹿になる。もっとも、学校でこんなことを考えたら授業を行うことができなくなってしまう。それで、そういうことは言わないことになっている。

小学校からだんだん知識が増えていき、それと引き換えにどんどん頭がはたらかなくなってしまう。ここで言う「頭が悪い」というのは、「新しいことが考えられない」「判断をする力がない」ということ。

知識が増えると、どうしてもその知識をそのまま使用して物事を処理しようとしがちになる。自分自身で考えることが、ついついおっくうになりがちだ。本に書いてあることをそのまま頭の中に入れ、それによっていれば自分で考える必要はなくなる。

知識をありがたがるのは歴史的なもので、どうにもならないことでもある。ヨーロッパでは一六世紀の終わり頃には、知識というものは社会的価値をもっているという考え方が確立した。以来、教育機関はとにかく知識を身につけることを教えた。それが大体今も続いている。

つめこんでいけば、頭の中はいずれ知識でいっぱいになるが、それは良いこと、素晴らしいことだとみなされる。だが本当にそうだろうか？　自分の頭の中が、他人が考えた知識、本に書いてある知識で満杯になることが、そんなにいいことだろうか？　トンデモないことでむしろ逆だ。そんな知識だけの頭では身動きが取れなくなってしまう。いわば、知識

メタボリック症候群。

知識メタボリック症候群の人は、一〇〇点満点の答案を書けるかもしれないけれど、この先三〇年もすれば、結局はつまらん人間にしかなりえないということがわかってくるだろう。心ある人は自分の責任で、自分の力でものを考えて行動できる人間でなければいけないと気づくことになる。例外はもちろんあるけれど、だいたいにおいて知識が増えると、ものを考える力が減っていく。知識と思考の間では反比例の関係が成り立つのである。

物知りはだいたいにおいてものを考えない傾向がつよい。古くからこれを「物知りの馬鹿」と言った。他にも、「なんでも知っている馬鹿」とか「学問のある馬鹿」などもこれに当たる。〈　B　〉、知識はあるけど、自分でものを考える力、新しいことを考え出す力がない人のことである。これは人間としてはあまり高級ではない。そういうことは昔からすでにわかっていた。しかし一方で、常に満点の答案を書けるような、正確な記憶をもっているものは人間以外に存在しなかった。そこで記憶力の優れた人間が、尊重されてきたのである。

ところが、今からおよそ六〇年前に、二〇世紀ごろ、かのコンピューターというものが登場した。これは人類にとって大事件だった。いくら優秀な人間でも知識をつめこむには限界がある。記憶、知識に関して人間はコンピューターに勝てるわけがない。実際、さまざまな場面において人間はコンピューターに負け、仕事を奪われてきた。

近年は大学まで出た人が就職難でウロウロしているけれど、コンピューターに仕事を奪われた結果だと考えられる。大学を出ても知識や事務処理についてコンピューターにかなう能力を持っている人はすくない。合理的に考えれば、知識しかない人間などもはやいらないということになる。〈　C　〉、コンピューターのほうがずっと能率がいいからだ。優秀なコンピューターを一台備えれば、何十人ぶんの、いわゆる事務的な仕事をこなしてしまう。下手な人間を雇うよりよっぽどいいわけだ。

これまでの人間は、のんびり知識だけ溜めこんでいれば、試験に合格することができた。試験に合格して学校を出れば、社会の中でエリートとして生きてゆかれた。しかしそんなのんきな時代は、コンピューターの登場で終わってしまったはずである。

人間は非常に保守的な生き物だ。いったん始めたことはなかなか変えない。コンピューターが現れて六〇年。最近になってみんなやっと、人間というものの本当の力がいったい何なのか、少しずつだけど気づき始めた。すくなくとも、もの

を記憶して、それを再生するという機能だけでは、充分ではない。記憶と再生に関しては、人間はコンピューターにとてもかなわない。長い目で見れば、そのうちに、多くの場面で人間の代わりにコンピューターが仕事をするという時代がやってくる。その時すべての人間が失職するというのであれば、実に哀れなことだ。元々、コンピューターは人間がこしらえたものなのに、そのコンピューターによって人間が仕事を失い、生きがいまで失う――そんなことにならないためにも、③知識万能主義から脱却しなくてはならない。

※（中略）

人間がコンピューターに勝つためにはどうしたらよいか。

その方法は「考える」こと。コンピューターは「記憶する」ことにかけては敵なしだが、「考える」ことを知らない。よく、プロの棋士と碁を打ってコンピューターが勝ったなんていうニュースを耳にする。コンピューターが考えているわけじゃない。知識として大量のデータを記憶しているのである。

本当の意味で「考える」ということは、日本人だけでなく、現代を生きる人間にとっても極めて難しい。なぜなら、われわれは「知識」を持っているからだ。

知識がある程度まで増えると、自分の頭で考えるまでもなくなる。知識を利用して、問題を処理できるようになる。借り物の知識でなんとか問題を解決してしまう。

もちろん知識は必要である。何も知らなければただの無為で終わってしまう。〈　D　〉、知識は多ければ多いほどいいと喜ぶのがいけない。良い知識を適量、しっかり頭の中に入れて、それを基にしながら自分の頭でひとが考えないことを考える力を身につける。

ところが、である。ふりまわされないためには、よけいな知識はほどよく忘れなければならない。しかし、この「忘れる」ことが意外に難しい。

学校の生徒で、勉強において「忘れてもいい」と言われたことはあるだろうか？　もちろん、今の学校教育ではそんなことは言わない。ともすれば「忘れてはいけない」と教えこむ。すくなくとも、「どうしたらうまく忘れるか」などとい

う学校はないはずだ。

〈 E 〉実は、「覚える」のと同じくらいに④「忘れる」ことが大事で、しかも難しい。この「忘れる」ことによって、人間がコンピューターに勝っているのである。コンピューターは「覚える」のが得意な反面、「忘れる」のはたいへん苦手。人間のように、うまく忘れるということができない。

そもそも未知なものに対しては、借り物の知識などでは役に立たないのが当たり前だ。それまでの知識から外れた、わけのわからないモノゴトを処理、解決するには、ありきたりの知識では役に立たない。いったん捨てて、新しい考えをしぼり出す力が必要となる。そういう思考力を身につけられれば、⑤コンピューターがどんなに発達しようと、人間が存在価値を見失うことはないだろう。

人間はずっと「忘れる」ということをおそれてきた。とにかく忘れてはいけないと思いこんでいる。急に「忘れよ」などと言われたらひどくとまどう。たいていの人は、覚え方は上手でも忘れ方は下手である。

なにもそれほど難しく考える必要はない。自然に忘れる。一番簡単なのは「夜よく眠る」ことである。

前の晩に、頭に知識を一〇〇入れて寝たとする。朝になって、その知識がそのまま残っていてほしいと願う人があるかもしれないけれど、そんなことがあっては大変。頭が壊れてしまう。正常な頭なら、前夜の知識はガタ減りに少なくなっている。なぜか？　睡眠中に忘却をすすめる働きがはたらくからである。この忘却の時間はレム睡眠と呼ばれる。人によって回数に違いがあるが、ひと晩に数回おこる。

起きている間の人間の頭の中へは、いわゆる知識以外にも、雑多な刺激が常に入りこんでくる。そのようにして流れこんできたもので不要だと思われるものを、レム睡眠の時にはねのけているのだ。

人間の頭は、自分にとって「どうも大事なものらしいぞ」というものは自動的に忘れないようにできている。当面は頭の中にないほうがいいと思ったモノを、レム睡眠は整理する。朝、目を覚ました時、たいていの人がなんとなく清々しい気分になっている。レム睡眠のおかげで頭の中の掃除が行われた後だから、頭の中のゴミ出しが住んだ後だからである。

この自然忘却作用は本当に大事にしなければならない。夜よく眠れない人は、大至急、眠れるようにしないと頭が悪くなってしまう。昼、つめこむよりも、夜、不要なものをすてる方が大事である。心身の健康のためにも忘却作用を大切にしたい。

けれど、勉強しすぎて知識をたくさんとり入れると、一日一回の睡眠だけでは足りない。ゴミがいっぱい溜まる。レム睡眠でゴミ出しをしてもなお、有害なゴミが頭の中に残るおそれがある。そんな場合、どうしても目が覚めている間に、よけいなことを忘れる努力をしなくてはならなくなる。有害なものは、なんとしても忘れないといけない。

そうかと言って、一日じゅう寝ているわけにはいかない。では、起きている間はどうしたらいいか、これはなかなか工夫が必要である。

（中略）

いろんなことをして忙しくなければダメ。同じことをだらだらと続けていても、頭はよくはたらかない。頭がさぼってしまって学習効果もあがらない。とにかく忙しくすること！　適当に忘れて頭をすっきりさせる。覚えて、忘れる、この切り替えがたいへんに重要なのである。

（外山滋比古「知ること、考えること」『何のために「学ぶ」のか』所収　ちくま新書　筑摩書房より）

問一　〈　A　〉～〈　E　〉に入る言葉として、最も適切なものを次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一回しか用いてはいけません。

ア　しかし　　イ　したがって　　ウ　なぜなら　　エ　そして　　オ　ただ　　カ　たとえば　　キ　つまり

問二　――線部①「これまでとは少し違った勉強をする必要がある」とありますが、筆者はこれまでとは違った勉強をする必要が生まれたきっかけは何であると考えていますか。本文中から一〇字で抜き出して答えなさい。

問三　――線部②「人間として大事な能力」とありますが、筆者が考える人間として大事な能力とはどのようなものですか。その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　社会の中でエリートとして生きてゆくための能力。
イ　たくさんの知識を利用して問題を解決しようとする能力。
ウ　知識として大量のデータを記憶する能力。
エ　常に満点の答案を書けるように、正確に記憶する能力。
オ　物事について自分自身の力で判断する能力。

問四　――線部③「知識万能主義」とありますが、これはどのような考え方のことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　コンピューターにたよって知識を手に入れようとする考え方。
イ　知識こそがほかの何よりも重要であるという考え方。
ウ　知識だけでできることには限界があるという考え方。
エ　知識と事務処理でコンピューターに勝とうとする考え方。
オ　知識を使って、自分にしかできないことを探そうとする考え方。

問五　※記号以前の本文からは次の文が抜け落ちています。正しい位置にこの文を戻（もど）したとき、直前に来る文の最後の五字を答えなさい。ただし、句読点を含みます。

「それに対して、コンピューターの記憶は正確無比だ。」

問六　――線部④「忘れることが大事で、しかも難しい」とありますが、筆者はなぜ忘れることが大事であると考えているのですか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　知識がたくさんあっても、人間はコンピューターには勝つことができないから。

イ　知識がたくさんあっても、未知なものに対しては役に立たないから。
ウ　知識がたくさんあると、一日一回の睡眠だけでは足りなくなってしまうから。
エ　知識がたくさんあると、自分の頭で考えることができなくなるから。
オ　知識がたくさんあると、その中の何が大切であるのかを判断できないから。

問七　――線部⑤「コンピューターがどんなに発達しようと、人間が存在価値を見失うことはないだろう」とありますが、人間が自身の存在価値を見失わないためには、どのようなことが重要であると筆者は述べていますか。解答用紙に合う形で、「ことで、」の前の部分は四〇字以上五〇字以内で、「ことで、」の後ろの部分は二〇字以上三〇字以内で答えなさい。

問八　本文で述べられていることとして、適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。
ア　「覚える」ことで、頭の中を知識でいっぱいにすることよりも、実際に体験することでその知識を利用できるようにすることが大切である。
イ　自分の力でものを考えることができなかったとしても、多くの知識を備えてさえいれば、そのような人はかつては尊重されていた。
ウ　たくさんの知識があるだけではとうてい満点の答案を書くことはできないので、面倒（めんどう）くさがらずに自分自身で考えることが大切である。
エ　たとえ知識がなかったとしても、自分の力でものを考えて行動することさえできれば、物事をうまく処理することができるようになる。
オ　知識だけを重視していてはいけないことや、「忘れる」ことが重要であるということは、学校の授業では教えてもらうことができない。
カ　人間は一度始めたことを簡単に変えることができない生き物であるため、現在多くの場面で人間の代わりにコンピューターが仕事をしている。
キ　夜しっかり眠らなければ昼間に起こった出来事や知識を記憶に定着させることができないため、人間にとって睡眠

は重要である。